

2025年度

Since 1969
To the future

2 あいさつ・令和6年度大ほんごう会の報告

3 - 7 卒業生だより

8 - 12 卒業生だより クラス会・OB/OG会

13 - 14 協賛広告

15 協賛広告・役員紹介

16 令和7年度大ほんごう会の開催案内

高専ロボコン2025東海北陸地区大会

事務局からのお知らせ

編集後記

富山高等専門学校本郷キャンパス同窓会会報

VOL. 29

ほんごう

令和7年11月29日(土) 大ほんごう会(同窓会総会・懇親会)参加者大募集 (詳細はP16をご覧ください)

撮影
E9 佐伯則男「黒部峡谷、下ノ廊下に行く」



あいさつ・令和6年度大ほんごう会の報告

ほんごう会の皆様へ

ほんごう会会長

長浜 啓一 Keiichi Nagahama

M5

ほんごう会会長の長浜啓一です。私が会長になり6年目になります。コロナ禍においては活動が殆ど出来ませんでしたこと、お詫び申し上げます。コロナ禍明けの2023年度より、大ほんごう会の開催も出来るようになり、昨年2024年度の大ほんごう会では、120名を超える会員の皆様に参加して頂き盛大な会となりました。「会報誌ほんごう」も、事務局と関係者方々の尽力により、毎年の中身満



載の会報誌に発展しています。本年の会報誌も充実していますので、最後まで是非読んで頂きたいと思います。

お願いになりますが、ほんごう会員の総数も年々増え8000名あまりとなりました。ご存じのように、ほんごう会の活動資金は高専入学時の永年会費のみとなっており、ほんごう会の活動資金が厳しい状態となって来ています。しかし、ほんごう会では会員相互の親睦が益々繋がる事をお手伝いして、相互扶助のため更に活発な会とするため、また学生の勉学、クラブ活動を支えるために、皆様からの更なるご支援をよろしくお願いします。

令和6年度大ほんごう会の報告

令和6年11月30日、パレブラン高志会館にて令和6年度大ほんごう会（ほんごう会定期総会・懇親会）を開催しました。定期総会には113名、懇親会は122名と昨年を上回る会員に集って頂きました。来賓は国枝佳明校長先生、恩師の名誉教授は武田文雄先生、松井紳一郎先生、寺西常宣先生にご参加頂きました。記念講演では、寺西先生による「富山高専とともにPart2-日本一の同窓会を目指して」と題して、長きに渡り富山高専とともに歩んでこられた先生ならではの楽しく、心温まる卒業生を交えた講義でした。（寺西先

生は富山高専副校長、米子高専校長を歴任され令和6年度に退官後富山にお帰りになりました）また、懇親会では、昨年よりパワーアップした本郷姉妹（軽音楽フォークソングOBOG）のライブ演奏を楽しんで頂きました。参加者の年代層の幅も広くなり活気溢れる会となって来ている事、またほんごう会員の皆様の繋がりを実感しました。本年も大ほんごう会を開催致します。さらに多くの会員の皆様の参加をお願い致します。



令和6年度 大ほんごう会 定期総会 於 パレブラン高志会館 令和6年11月30日

卒業生だより

高専入学から60年超えの技術者人生

庄司 忠 Tadashi Shoji (E1)

昭和39年4月富山工業高等専門学校第1回生として、まだ完成していない本郷校舎で学びが始まりました。初期の頃は、校舎の廊下にマットを敷いて体操の授業、教室に畳を敷いて柔道クラブ活動、また、校舎中央の階段ホールでは、昼食のパン・牛乳の出張販売や教科書の出張販売でした。

勉強は、数学を早くマスターしなければと云うことで微分積分等について行くのが大変だった思い出があります。それと、実験授業をやると毎回レポートを提出しなければなりません。これも重荷でありましたが、仕事についてから技術論文や計画立案、技術士試験の論文作成では、良い訓練になったかなと思っています。

1. 就職

卒業間近での森川先生の「学校は基礎。会社に入ったら、そこで勉強して技術を高めること」と云う言葉は、今も頭に残っています。

就職については、第1回の卒業生と云うことで、後に続く後輩の為に出来るだけ多くの会社に就職出来るよう1社1名の方針だった様に思います。(尚、(株)富山計算機センター[現インテック]と電電公社[現NTT]は複数名入社。)

私も日本国有鉄道[現JR]に入社し長野・東京・金沢・名古屋、JR西日本になって大阪・京都・岡山と転勤し本社財務部・建設工事に勤務し退職。JR退職後は子会社の西日本電気システムの金沢支店長として金沢で10年と色々な鉄道電気の仕事をして47年間させて頂きました。

2. 鉄道電気技術と資格

鉄道電気工事に携わり色々な地域で、気象や社会状況の様々な環境の中で、電気設備工事の計画、設計、試験、検査を経験し、平成4年に技術士(電気電子部門)の資格を取得しました。

鉄道は、高速・大量輸送を安全に遂行する為、設備については法律で国の許認可を受ける事となっています。この場合一般認定鉄道事業者では、設計管理者(電気、土木、車両3分野があります)を置いて工事の設計確認を行う事となっています。この設計管理者の必要資格が「技術士」です。(他の資格もありますが最重要資格)

私は、平成8年～10年の3年間電気設計管理者を務めました。

また、取得した電験2種資格で平成元年～平成6年の6年間、建設工事の電気主任技術者の任務につき、平成元年に取得した1級電気工事施工管理技士資格は、JR西日本退職後、関連会社の西日本電気システム(株)に入社し金沢支店長として北陸新幹線電気設備建設工事を推進した時には、大いに役立ちました。

変わった資格では、JR西日本財務部に勤務していた時に簿記3級を取得し、他にクレーンや消防設備士等10個以上取得しています。

3. 北陸新幹線長野・金沢間電気工事

私は、北陸新幹線と長い御縁がありまして、旧国鉄に入社して昭和45年最初に配属されたのが長野で、この年成立した全国新幹線鉄道整備法によって北陸新幹線が高崎から長野を通して富山・金沢・福井を経由し大阪に至るルートが整備計画が決定しました。この時の建設主体はあの田中角栄さんの日本鉄道建設公団(鉄建公団)でした。

私の気持ちは、長野から富山へ新幹線で直に行けるようになるかと思うとワクワクし、あの北アルプスの火山地帯をどんなトンネルで抜けるのかと、さらに思いを巡らせたものでした。

それから27年、北陸新幹線は長野冬季オリンピックに合わせ平成9



年に長野迄開業。私が平成13年JR西日本建設工事に配属になって、長野・金沢間電気設備工事計画の取り纏めを担当しました。そして鉄建公団から組織変更した建設主体の(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構(鉄道・運輸機構)にJR西日本の同意書を返し、工事発注が行われました。

その後、工事会社の西日本電気システムで金沢支店長として電気設備工事を施工し、2015年(平成27年)3月14日金沢開業を迎えました。その後、これまでの北陸新幹線電気設備施工記録(A4版560頁)を作り同年9月をもって鉄道電気人生を閉じさせていただきました。

この様に、私の鉄道人生と北陸新幹線建設は同時進行という巡り合わせで終えさせていただき感慨深いものがあります。今は、鉄道から離れた小さな農園で家業の梨栽培をしていますが、50年で知り合った鉄道電気技術者は全国にいらっしゃるし、また技術士会の催しにも参加して専門技術の情報交換、そして新技術の習得にも取り組んでいるところです。

4. 若い世代に

先ほど森川先生のお話をしましたが、学校で見える世界は限られていると思います。

また、最近のIoTの進歩やAI等思考のレベルも急速に進んでいることから、高専で基礎をしっかり作って、実社会の現場で技術を磨き・高めて行って欲しいと思います。

そして、技術士を始め、いろんな資格を取得し、それを会社の業務に活かし、誰にも代わりの出来ない自分を作っていって欲しいと期待しています。

5. E1同窓会

皆が就職後、がむしゃらに仕事に取り組み、ある程度の立場になった平成8年、それまでも近くの者同志で会うことはあったのですが、E1同窓会をやろうと言う話が出て、熱海温泉・後樂園ホテルで第1回E1同窓会を開きました。

同窓生は、一人一人違った会社で違った仕事をしているので、話しに花が咲きました。

それからコロナ禍の3年間を除き、関東・中部・関西・北陸、場所を変え26回開催してきました。その地区の人が準備を行い、当日夕方に集合し懇親会をして、場所を変え深夜まで飲み語り明かし、翌日近場の見所を散策し、お昼をいただいて解散、と云うパターンで情報交換と親交を深め、楽しい時を過ごしてきました。

皆が会社を退職する年頃になると、人数も減少してきて、集まり易い富山での開催が続きましたが、年齢を重ねて喜寿を迎える歳となり、2024年(令和6年)11月7～8日の開催をもって29年間続いたE1同窓会に幕を下ろすことになりました。今後は、顔を合わせた者で誘い合い、懇親を続けることにしました。



2024年11月8日 同窓会集合写真

高専と言う素晴らしい学校に出会って

富山県漁業協同組合連合会 会長
第三伊登勢丸 船主船長

道井 秀樹 Hideki Michii (C15)

【はじめに】

ほんごう会事務局より寄稿依頼を受けてから、原稿へ向かう気力が出たのは半年後でした。テーマは色々有りましたが、徒然なるままに、ほぼ私の半生を語る事になりますが、飽きずに読んで頂けると幸いです。

現在は、富山市岩瀬で小型機船底曳網漁、いわゆる底曳き網を営んでいます。4～11月は富山名産の「白えび」を獲り、12月～3月は「ズワイガニ」や「甘えび」を獲る漁業の船主船長です。富山の海の幸は大変美味しいので沢山食べて下さい。「白えび」ばかりでなく、富山湾に流れ込む富山の水で育った魚は何を食べても美味しいので。皆さんと一緒に富山に生まれ育った事に誇りを持ちましょう。



第三伊登勢丸



獲物を探す

【夢は大工】

卒業後、当時の北辻先生の強い勧めもあり「三菱化工機」（当時は分社が流行りで同社の建設部が独立して「化工機工事」と名乗っており、後に再統合で戻ることになった）に入社しました。理由は、「ラグビーが出来る人」と勧誘人事部が言ったからです。笑える理由ですが事実です。私の人生の分岐点ですが、実は遡るとそれ以前にも分岐点がありました。

幼少時の夢は「大工になりたい」でした。漁師の三男でしたが、当時は家業を継ぐ事はあまり考えませんでした。その夢は、出生地の富山市岩瀬地区に有る勇壮な「岩瀬曳山車祭」からです。父親が大の祭り好きで、その影響を強く受けいつも祭りに駆り出された時には、毎日曳山車に載せる「タテモン」の制作に通いました。大工さんの仕事ぶりに強く惹かれ、いつしか自分の手で家を立てたいと思うようになりました。中学卒業までずっと同じ気持ちでしたが、実際受験期になるとその気持ちに多少変化が出てきました。色々考えた末に行けそうな現実的な選択枠を選び、工学理化学も好きだったので工業化学科を受験しました。

幼少より独立心が高かった私は、決して裕福とは言えない生活から「いつかは自分で会社を起こし、経営者となって金を稼ぐ」と言う強い願望を持つようになりました。しかし、高専卒

業少し前から夢だった建築の仕事を諦めて実家の家業を継ぐことを決意しており、当然就職時にも黙っていました。今思えば誠に身勝手な話で、就職先の会社にも大変失礼な事だったと今でも思っています。

【就職して】

三菱化工機で社会人をスタートした私は、5年間を目途に社会の仕組みを体現するつもりでお世話になりました。当時の会社の独身寮は、横浜の鶴見区東寺尾で国道1号線の真横に有り、近隣には花月園競輪場、俳優宅(緒形拳)や美空ひばりのお墓の総持寺もありました。三菱化工機の本社は東京都港区三田、事務所は川崎市大川でした。最初の3ヶ月間は同期30名位と共に毎日背広で研修所に通いました。全国各地の高専、大学、院生と共に、とても楽しく過ごした思い出があります。毎日昼休みには工場内でラグビー練習を行っていました。当時の会社のラグビー部は関東3部リーグに属しており、後の神奈川県選抜のセレクションやオール三井、三菱大会と言った現在のプロリーグに出場する選手と相まみえた事は貴重な財産となりました。入社には、創部20周年の記念事業でブレザーを新調したことも強く印象に残っています。残念ながら、今もそのブレザーを持っていますが着る機会がありません。しかし、昨年に創部60周年記念で夫婦共々呼んで頂き、旧交を深めてまいりました。40年も経つと、横浜みなと未来周辺も大きく様変わりをしており、大変驚いて帰ってまいりました。

研修終了後、最初は東京ガス根岸工場内の常駐現場に派遣され、主に定修作業や新設工事の現場監督業務でした。週末はラグビーの試合が有り、東京ガスのグラウンドを借りて1人で練習しました。また、ゴルフ好きの所長からは「道井、これからの接待業務はバーやキャバレーじゃなくてゴルフだよ」と言われ、初任給でハーフセットを購入し、毎日昼休みに素振りをさせられました。所長は現場用カメラを使って素振りの連続写真を撮ってくれました。今見ても若い頃のフォームはすごく良く、なんで今は振れないのだろうと悲しくなってきました。当時は練習場の球が高価で、10回素振りして1回打っていました。残念ながら、所長には1度もコースへ誘ってもらえませんでした。



社会人スタート



社会人ラグビー

卒業生だより

最初の赴任先は千葉県市川の「ライオン」でした。現場近くの民宿に1ヶ月程お世話になり、特殊なタンクの改修工事を担当しました。その現場グラウンドでラグビーの試合が行われましたが、相手選手に腰を蹴られたため小骨にヒビが入り、2ヶ月ぐらい痛みに悩まされました。しかし、病院に行く暇も無かったので、次の茨木県鹿島「昭和産業」でも痛みが続きました。今でも寒い日に腰が疲れると痛みが出ます。錦糸町の「三菱瓦斯化学」では、宿泊近くのスナックにいたオカマに気に入られ、帰り道にあとをつけ回された事は記憶に深く刻まれています。羽田空港横の東亜石油では、現場主任で赴任し廃煙脱硫装置の新設工事は非常に興味深いコンストラクションでした。東京駅前のモルガン銀行の空調工事現場では、あちら系の工事会社社長に気に入られて、代紋の入ったキャデラックを贈られそうになりました。最後の現場となった大阪ガス姫路製造所は、大阪ガスの大規模LNGプラントで、ハイグレード、ハイスベックの塊のような現場でした。初めて技術を超越する事を要求され、人生で初めて死にたいと感じたプレッシャーは、今でも鮮明に覚えています。丸2ヶ月間休みが無く、時間外も軽く200時間を超えたけど若いから出来たのだと今更ながら感心しています。お盆に帰省出来なかったのが、当時富山では無名だった揖保乃糸(そうめん)を1万円分実家へ贈ったら、食べきれないと言われました。同時に、「実家の父親が倒れたので帰ってこい」と連絡が有りました。当初より5年を目途と伝えており、半年早いが決断しなければならぬ事は解っていました。今の仕事も私の天性に合って面白くなってきていた時期でしたが、1週間程悩んで頭を整理しました。上司に相談しましたが、当時の建設部長が実家へ説明に行くと言い出し、何とか説得して理解して頂いた時には非常に胸が痛み、また感激した事は今でも昨日の様に思い出されます。大阪ガス姫路製造所の完遂までは両親に待ってもらい、退社2週間前に本社工場建設部に戻り、ラグビー仲間や同期に送別会をして頂きました。同期送別会の2次会ではピンクキャバレーを貸し切り、全員素っ裸で大騒ぎして記念撮影しました。後日送られた写真には、記念撮影が無くとても残念でした。(笑)

「三菱化工機」退社後、私の人生は次の章に入ります。その前に、その礎となる学生時代を紹介します。

【振り返り】

今でも人生には色々な関係が作用すると実感しています。勉強よりもスポーツが好きな私は、小学生では地元岩瀬小学校でサッカー少年団でした。当時の監督は、なんと工業化学科の塩谷教授。当然知る由も無く厳しい人の印象しか有りません。後に私の人生の分岐点に関わるとは思ってもいませんでした。その後、中学は3年間バスケットボール部で、3年生でキャプテンを務めましたが、それも後々の人間形成に大きく関係しました。中学3年時、進路を決めたキッカケは、同級生とバスケットボールを使って悪ふざけでラグビーのマネをして遊んだ事です。同級生の兄が当時富山中部高校ラグビー部に所属した影響で、ラグビーの面白さに出会えました。私の選択枠では、ラグビー部の有る学校は高専が県立工業高校しか選択がなく、取り敢えず高専受験を試みました。受験当日は、大変体調が良く勘も冴えわたり、鉛筆も非常に好調に転がり、無事合格する事が出来ました。

私が入学した年の高専ラグビー部は、同好会から部に昇格したばかりで、練習場もハンドボールコートでした。入部当初の先輩方は、両極端で当初から良いおっさんか、悪いおっさんの

集団でした。入学当初、私はバイク通学を期待していましたが、偉大な先輩方が事故ばかり起こしたので我々の時代から禁止となりました。通学は面倒臭いと思い5年間寮生活を決めました。当時、富山市内在住の寮生は私だけだと思います。今まで集団生活の経験が無かったので、この経験が色々なシチュエーションで自身の糧になっていったのだとは思っています。1年が経過した頃「私は本当に今のままで良いのか？本当は大工として工務店をやりたい」と思い、みんなに「石川高専の建築科に転入しようかな」と吹聴していたのです。これが当時寮監の塩谷先生に知れ、呼び出されて説教を受けました。塩谷先生からは、「人生一通りでは無いから5年間を全うしてからでも遅くはない」との金言を頂きました。それもそうだと思い直し、これも一つの分岐点となりました。その後は、勉強は程々でラグビー部活動に邁進しましたが、この部活の進化過程が私の血となり肉となりました。当時のラグビー部は弱小で、商船に0-100で負けてしまうありさまでした。指導者も不在で、先輩方も一生懸命でしたが明確なビジョンが見えておらず、慢性的な部員不足でした。3年生時にはチームの中核を成す事になり、指導者不在だった中学時代のバスケット部の経験を生かしました。長期、中期、短期の計画立案で、人材育成と意識の高揚を促す術を得る事になりました。5年生時には、ラグビー部を全国高専大会に初出場を果たし、「成せば成る」と言った努力の成果が、自信に繋がる意義を習得しました。同時に、4年生の頃から「道井はラグビーで頑張っていれば卒業させてやる」と体育のM先生やドイツ語のN先生からの助言がモチベーション維持に繋がり、最後は「人は人によって生かされるんだなあー」と思え大変勉強になりました。決して学力が有った訳ではない私が、中学を卒業して直ぐに未成熟な時代を、高専の「5年」というロングスパンでの人間形成のシステムは、大変素晴らしく世に誇れるものだと思いたいと思います。



高専ラグビー

【まとめ】

どんな技術も最終的には人間のためですが、技術に振り回されないようにした方が良いと言いたいのです。私の好きな言葉は「人間万事塞翁が馬」です。なかなか、習った学問が直ぐに仕事に繋がるとは思いませんが、自身の状況に応じる臨機応変さは高専の5年間で養えると思っていますので、頑張ってもらいたいと思います。

なぜ漁師になったのか？と言うと、実家が漁師だったからです。工事現場も大変好きで、体が2つ有ったら今でも両方やりたいのです。自然相手の生産現場もなかなか思い通りにはなりません、結構面白いものです。若いうちに沢山の失敗をしてもすぐに取り返す事が出来ます。歳取ってからは致命傷になりかねないので注意が必要です。笑笑。

高専からの軌跡—学び、仕事、未来へ

富士フイルム富山化学株式会社 取締役 執行役員 富山研究開発センター長

清都 太郎 Taro Kiyoto (C18)



高専の思い出

中学時代、理科が好きだった私は、理系の授業が多そうな富山高専の工業化学科（当時）を選び入学した。在学中の思い出は多々あるが、最も印象深いのは柔道部での活動だ。

柔道部には当時顧問の松井先生に誘われるまま入部し、5年間熱心に取り組んだ。その結果、1年生から5年生まで全国大会に連続出場した。先輩、同級生、後輩にも恵まれ、4年生の時には団体戦で全国初優勝を果たしたことは、今でもとても誇りに思っている。当時の柔道部は、全国大会を狙うための厳しい練習もあったが、和気あいあいとした雰囲気、仲間たちと充実した日々を過ごした。また、柔道部は、部活動だけでなく、学業も頑張らねばという雰囲気もあり、周囲からよい刺激を受けた。私は元来怠け者だったが、お陰で落ちこぼれずに済んだ。その後の人生に必要な多くのことを学んだ5年間であり、私の原点となった。



第19回全国高専柔道大会 和歌山



柔道部OB会

大学への進学と就職

高専卒業後、さらなる学びを求め岡山大学工学部工業化学科に編入。3年次編入のため、多くの単位を1年で取得する必要があり、忙しい日々を過ごした。専門の化学の講義では高専の学びを深めることができ、文系科目では新たな視点を得られた。専門外の文系の講義は、案外楽しみの一つだった。高専時代はあまり学ぶことの少なかった世界史や世界地

理などの講義が特に新鮮だった。日中は忙しかったが、ときには夕方から当時の大学生らしく遊びにも出た。友人とドライブしたり、大学近くの喫茶店で語り合ったりする時間も貴重な思い出となった。ただ、比較的自由に過ごせたのはこの1年間だけだった。

4年次は研究室生活が始まり、途端に時間的余裕はなくなった。3年次が終わると研究室を選ぶことになり、有機化学合成の研究室を選んだ。いろいろ学ぶ中で、分子を人の手で作り上げるといふ有機化学という学問に魅了された。日々、科学雑誌に目を通し、他の研究グループの成果に刺激を受けたり、驚いたり。その後、大学院に進学した。

研究室には多くの留学生やポスドクが在籍しており、それまでの人生で外国人と接する機会がなかった私にとって、その交流を通じて大きく世界が広がったと感じた。研究室の生活は、実験、特許・論文作成、学会準備と慌ただしく過ぎていった。日々忙しく、日本化学会での学会発表が卒業旅行代わりのようなものだったが、その経験は研究者としての基盤を築く大切な機会だった。

1990年に大学院を修了し、就職にあつたては、有機化学のスキルを活かせる会社と考え、化学メーカーか製薬会社への就職を考えた。中でも複雑な化合物を設計し、自ら合成できるというところに魅力を感じ、製薬会社の研究職の仕事を志した。

当時は、まだバブル経済崩壊前で、売り手市場だったと思う。就職活動らしいものをした記憶は全くない。多くの企業が、学生の内定式参加によって「入社確定」にしようと、学生の囲い込み競争を盛んに行っていた時期。人事担当者が温泉や海外旅行に連れて行ったりする例が、面白おかしく報道されていた時代だった。

私は、教授から関西の某大手製薬会社を紹介されたが、いろいろ考えた末、実家のあった富山に帰ることを決心した。自分のスキルを活かせそうな富山化学工業（株）に就職した。当時、多くの人が教授推薦によって就職が決まった時代。推薦なしに学生自ら会社の人事部に連絡してくるのは珍しかったようだ。

仕事の歩み

入社後は、希望通り有機合成技術を使って、薬の候補化合物を合成する研究所に配属になった。てっきり、企業での研究が始まると思ったが、予想に反して直ぐに工場での試作製造を命じられた。実験室しか経験のない私にとって、工場の生産装置の扱いは緊張の連続だった。夜勤や製造部の方と一緒に仕事は新鮮ではあったが、最初は大いに戸惑い、躓きもあった。深夜の製造トラブルでどうしたら良いか判断できず、真夜中に上司に電話して指示を仰いだことは、今では思い出となっている。一方、この入社直後の工場での経験は、後に商用製法開発に従事したときに役立った。

卒業生だより

工場から研究所に戻ると、今度は直ぐに東京大学薬学部へ研究員として派遣された。当時、有機化学の世界で活発に研究されていた不斉合成の研究に取組んだ。さらに、安定同位体を用いた核磁気共鳴装置を用いた研究などは、企業では得難い経験だった。最先端の研究に取り組む教員・学生との交流もその後の財産となった。一方、同期が会社の研究所で研究している中、未だ企業での研究が出来ていないことに対して不安が募った。2年が過ぎた頃、上司に会社に戻してほしいと申し出、その通りに富山の研究所に戻った。

富山に戻ってから、30代にかけて新薬候補の探索研究を行った。疾患の標的に合わせて化合物設計・合成し、社内の薬理部門で効果があるか評価してもらう作業を繰り返した。自分の造った化合物がどのような効果を示すのか、毎日、評価結果が楽しみだった。まさに学生時代に思い描いていた憧れの仕事だった。

新しい薬剤が開発される確率は、数万分の1とも言われている。薬剤開発の途中で厳しい試験が何度も行われ、多くの候補物質がふるい落とされる為だ。複数のテーマで10年ほどそんな研究が続けたが、結局、私の合成した化合物は、人での効果を試されるには至らなかった。毎日の仕事は楽しかったが、何か会社や社会に貢献出来ていないというもどかしさを感じていた時期でもあった。

30代後半になると、自ら新しい化合物を作る仕事から、既に他の人によって見出された化合物を大量生産する製法開発に従事した。数mgしか作れない実験室レベルの化合物を何百kg単位で製造する技術を確立することが求められた。品質管理や環境への配慮、安全性の確保といった新たな課題にも取り組み、商用生産に向けた製法開発に成功。開発した製法を海外の会社に技術移転するというのも経験した。言葉の壁だけでなく文化的背景から来るコミュニケーションの難しさを感じつつも、海外の会社とのやり取りに充実感を覚えた。この時期、ようやく役に立つ仕事ができたと感じた。

その後は管理職となり、研究プロジェクトの推進や組織マネジメントを担当。富山化学は、2008年から富士フィルムの傘下に入った。そのこともあり、2011年からは富士フィルムの神奈川県の研究所に転出、異なる環境での仕事を体験。異なる文化や研究スタイルに戸惑いながらも、様々の分野の多くの研究者との交流を通じて貴重な学びを得た。その後に富山に戻った後、研究を離れて工場長も経験したが、2023年から現職に就いている。

仕事に関連する社外での活動もいくつか経験した。中でも2015年～2021年には日本プロセス化学会の理事を務めた。2020年には東京五輪の影響で、通常は東京で開催される学会シンポジウムが富山で開催予定となり、世話人を担当。全国からの学会参加者を迎える準備を進めたが、コロナの影響で中止。翌年もオンライン開催となり、3年越しの2022年、ようやく富山開催が実現。長い準備期間を経て、ほっとした瞬間だった。この時期、様々な催しを世話された方は皆大変だったことと思う。

私生活では、28歳で結婚し、2人の息子は既に成人して各々働いている。趣味はあまりないが、30代で始めたゴルフ

を細く長く続けている。仕事以外の人との交流の場としても楽しんでおり、特に高専柔道部の仲間との年数回のラウンドは大切な時間だ。

また、50代になり健康を意識し、朝のジョギングを習慣にした。ジョギングを始めて1年後には富山マラソンを完走し、大きな自信と達成感を得た。

読書も大切な習慣の一つだ。特に科学、経済、社会学に関する本を好んで読み、未知の知識に触れることで新たな視点を得ることを楽しんでいる。

現在の仕事と会社

現在、富士フィルム富山化学の富山研究開発センターに勤務。富士フィルム富山化学は、抗感染症領域の研究開発や製造に強みを持ち、国内でペニシリン系抗生物質の合成および無菌製剤の製造を行う唯一のメーカーだ。一方で、大きな事業転換を進めている途中でもある。

現在の製薬業界では水平分業の流れが強まり、研究、製造の委受託が盛んだ。当社も「受託研究機関（CRO）」と「医薬品受託開発製造機関（CDMO）」で事業を展開。CROではiPS細胞由来分化細胞を用いた評価技術、病原微生物を用いた生物評価を提供し、CDMOでは脂質ナノ粒子（LNP）を用いたDDS技術による製剤プロセス開発を推進。抗体医薬品生産も可能とする新たなバイオCDMO拠点を富山市内に建設中だ。

もともと低分子の合成や反応がバックグラウンドだった私であるが、低分子からDDS製剤、抗体医薬まで、日々新しい学びの連続である。

最後に、当社の富山高専卒業生について触れたい。富士フィルム富山化学には富山高専の卒業生は毎年のように入社し、様々な部署に分かれて数十人在籍している。社内での交流もあり、高専OBの活躍を聞くととても嬉しい。年に一度ほど集まる機会もあって、それを楽しみにしている。

若い世代への期待

変化の激しい現代において、学び続ける姿勢は不可欠だ。技術や知識は日々進化し、従来のものがすぐに通用しなくなる。だからこそ、情報を積極的に吸収し、深く理解し、新たな技術を柔軟に活用する力が求められる。

情報が溢れる時代だからこそ、自ら考え、主体的に行動し、自分らしい生き方を追求してほしい。さらに、どんなことも楽しむ工夫をすることが大切だ。前向きに取り組めば、新たなやりがいや成長の機会が見えてくるだろう。

常に学び、柔軟に考え、楽しむ姿勢を持ち続けることで、自らの可能性を広げ、充実した人生を歩んでほしい。若い世代が新たな社会を創造していくことを期待している。



富山マラソン完走

富山高専C1 クラス会を開催

寺田 新一 (C1)



富山高専 C1クラス会 山代温泉『瑠璃光』2024年9月27日

2024年9月27日 富山高専C1クラス会を石川県山代温泉「瑠璃光」に於いて開催しました。ご本人やご家族の健康問題や介護の為に出席を断念された方も数名いましたが、全国から20名の方が参加されました。前回開催時に今後富山、石川、福井の北陸3県の在住卒業生で持ち回り開催を決めましたが、その後コロナ禍等で延期を重ね今回が偶々卒業55周年の記念すべき会となりました。会の冒頭で第1期同窓生となって以来、残念乍ら一足先に帰らぬ人となった6名の同胞に黙祷を捧げてから開始したが、久しぶりの再会に会場は笑顔や笑い声が絶えず、学生時代の昔話、会社時代の活躍、近況報告や後期高齢者突入の健康問題等の話題で盛り上がっていました。

また恒例の幹事部屋での二次会でも宴会では話し足りなかったのか深夜遅くまで様々な話題に談笑が絶えませんでした。次回開催の富山県担当を決めて無事閉会しました。

E3クラス会 @2024

川原 久雄 (E3)



2024年6月7日(金)尖山山頂にて
米田守、金尾誠一、吉崎喜久雄、中田秀芳、高田哲雄、川原久雄

2024年2月の新年会を皮切りに毎月集まろうとの話になり、定例でクラス会を実施しています。6月には立山町の尖山(とんがりやま)にハイキング。2時間程の往復でしたが、久しぶりの山登りに体力の衰えを感じさせられましたが、天気も良くて頂上からの見晴らしは抜群でした。

今年も月例会をやっていますので、クラスの皆さんご参加をよろしくお願いします。

- 2/2 (金) 新年会@富山駅前8人
- 3/1 (金) 居酒屋4人
- 3/29 (金) 居酒屋5人
- 5/2 (木) 居酒屋6人
- 6/7 (金) 尖山ハイキングと居酒屋6人
- 7/4 (木) とやま自遊館ビアガーデン8人
- 8/2 (金) 居酒屋6人
- 9/5 (木) 居酒屋6人
- 10/4 (金) 居酒屋6人
- 11/14(木) 居酒屋7人
- 12/6 (金) 居酒屋7人

M4クラス同窓会 6年ぶりに第5回開催

磯野 昇 (M4)



2025年6月7日 桜木町スナック志摩
左より丸山治久、木村二郎、坂本英昭、西野利信、藤井英一、塩谷隆志、磯野昇、和澤英樹、山崎勝弘

2025年6月7日、『桜木町』の郷土料理店「十々八」にて第5回のM4クラス同窓会を開催しました。参加者は11名内4名が県外(千葉県2名、埼玉、茨城各1名)から駆けつけてくれました。2015年に第1回を開催して以来、ほぼ毎年開催していましたが、コロナウイルス感染症の影響で、6年ぶりとなりました。

クラス長の乾杯に引き続き各自から近況報告を一言ずつとお願いしたところ、学生時代の話が尽きなく、全員が終わるころにはお開きの時間となりました。初代クラス理事の万歳三唱で締め二次会会場のスナック「志摩」に移動しました。久しぶりの開催だったため、集合写真を撮り忘れ一次会で帰った2人(藤井誠、長井勉)以外のほろ酔い9人をパチリ。スナックではお互いの得意分野の選曲で盛りあがったところで閉会となり、来年の再会を誓いあいました。

卒業生だより クラス会・OB/OG会

2024年度 M8クラス会

山田 弘文 (M8)



少しでも楽をさせてもらおうと、前年と同じ会場の富山自遊館で2024年7月20日に同窓会を開催しました。事前に有志数名と「役員会」と称して数名が集まって、呑みながらいろいろと決めてくれたので本当に助かりました。同窓会当日は、ゴルフをしてから来る人・遠方から来る人・仕事を終えてから来る人・・・それぞれのアプローチで会場に集まりました。

昨年同様卒業時の約半数が出席して、おじさんだけの同窓会にもかかわらず一瞬で高専時代に帰り本当に盛り上がりしました。部活の話・厳しかった先生の話・就職してから今日までの話・・・。お開きの後宿泊者の部屋に集まり、夜中まで話が尽きることはありませんでした。私的には、大学受験の心配をせず雄大な立山連峰が間近に見える富山高専で5年間を過ごせて本当に良かったと思います。今年はみんな70才を迎える年になりますが、健康に気をつけられ末永くこの会で集まれたらと思っています。

2024年 「M9同窓会」報告

芝田 隆義 (M9)



2024年8月23日(金)から24日(土)にかけて、M9の同窓会を行いました。私たちの同窓会は、2年に1度のペースで続けてきましたが、今回は11名参加でした。(前回は8名)この歳になると参加者の顔ぶれが決まっているように思いますが、それでも久しぶりに見る顔もありとても懐かしく楽しいひとときを過ごせました。

今回の開催場所は、氷見の民宿「磯波風」にしました。今年の元旦に起きた大地震の影響で、氷見の町も大きな被害が出て民宿の方も断水で苦労したそうです。今は通常通り営業をされているようで、皆おいしい氷見の魚を中心にした料理を食べながら各自の近況を報告し合い、部屋に戻っても談笑はつきませんでした。

9回生は今年68歳ですから次回は70歳になっています。この次も、皆元気で再会しようと約束して解散となりました。

K4同窓会

熊西 勝己 (K4)



前回の2018年同窓会からコロナ禍で見合わせていた面もあり、6年ぶりの開催になった。6年経過した間に、仕事をリタイヤして自由な時間を過ごしている人、現在も現役で仕事している人と各自各様でしたが、同窓会初参加の土山さんなど久しぶりの再会者もいて話に花が咲きました。K4同窓生は、卒業時に3年生で中退して大学受験した同級生が多く卒業時に30名しかいない過去歴代二番少ないクラスです。そして卒業生30名は、68才になった今も誰も亡くなった人がなく全員元気で生活していることは、珍しく非常に喜ばしいことであり今後も健康に留意出来る限り再会できる事を誓いました。

今回の同窓会開催時に岩黒さん(岩黒製作所社長)の開催挨拶で来年は古希祝いで同窓会を盛大に開催しようと提案があり再会を約束して解散しました。

尚、今回私の不手際もあり宴会時に集合写真を撮り忘れ日帰り2名(藤牧さん、大木さん)の写真掲載漏れがある事をお詫びいたします。

2024年9月21日(土) 呉羽ハイツ(15名参加)
後列左から： 藤森、岩黒、惣元、二口、伊藤、小森、安川、西野
前列左から： 遠藤、熊西、谷、伊藤、磯野

C10クラス会2024

打出 孝彦 (C10)

2024年8月13日、お盆期間中富山駅中「八兆屋」にて参加者13人で5年振りのクラス会を開催しました。久々に集まりましたが、皆65歳超えてリタイア組がほとんどで、第二の人生の話で盛り上がりました。

毎日が日曜日の人、新たに請負で商売を始めた人、週3日のアルバイトに行っている人、会社の役員に成った人、会社経営している人など様々ですが、コロナ禍前は毎年お盆休みにクラス会をしていました。

クラス会に来てくれるのは、毎回同じ顔ぶれですが、5年前は孫の話などが中心でしたが、今回は、自身の今後の身の振り方の相談が多かったように思います。

二次会はいつもの桜木町のスナックでした。高齢になるとお酒の影響もあり、眠くなる人もおりましたが、カラオケで盛り上がり次回の幹事を決めて無事クラス会お開きに成りました。



E12プチ同窓会

深山 信一 (E12)

2025年2月2日～3日に、立山吉峰温泉ゆーランドでプチ同窓会を開催しました。プチ同窓会は、2022年12月より約3か月毎に行っています。今回は第10回の節目開催を記念して、初めて泊まり込みのプチ同窓会としました。東京からの参加者も加わり、総勢10名によるにぎやかな開催となりました。

6年前の2019年3月、卒業以来40年ぶりに恩師の先生と30余名で同窓会を開催しましたが、今後は短いサイクルに変えて、自分の都合でいつでも参加時期を選べるプチ同窓会スタイルに変えて開催することにしました。残念ながら、コロナ禍の影響で2022年12月にやっと第1回プチ同窓会を開催できました。

宴会では、カラオケで盛り上がり、2次会の部屋飲みでは、大量に持ち寄った種々のお酒をたらふく飲んで話に花を咲かせました。次回のプチ同窓会には、沢山の同級生に参加してもらえることを楽しみにしています。



卒業生だより クラス会・OB/OG会

第3回 M24 同窓会

阿部 剛 津里 誠 酢谷 太一 (M24)



2024年 8月11日（日）機械工学科 第24回生（M24）同窓会を開催しました。委員長の発声で乾杯！！無事昨年に続き開催し再会できた事、皆さまに感謝。ひとたび会が始まれば昔の仲間の会話は一気に加速。なんて楽しい時間なんだ。卒業してから、それぞれが歩んだ人生経験を遠慮なく、語らせる仲間との時間は何物にも代えがたい、ありがとう！新たに連絡とれた仲間も駆けつけて大いに盛り上がりました。

今年は13名の仲間に参加いただきました。お忙しい中、日程調整し参加してくれた仲間感謝申し上げます。来年も「M24の会」は開催します。今後も一人でも多く参加者が増える事を楽しみにしております。みんな元気で来年も再会しましょう。

M32 第2回クラス会

菓子 貴晴 (M32)

昨年から始めたM32クラス会、今年も開催しました！！お盆休みが前後半に分かれてしまったため、昨年よりは参加者が減ってしまいましたが、継続することに意味があるということで、集まれるメンバーで開催しました。卒業して25年、就職してみな中堅を超える頃なのか、各々の仕事の業績や課題、若手の扱いでめっちゃ盛り上がりました。昔は單車の話ばかりしていたのですが、今は大人になったものだなあとしみじみ。

やーでも同級生っていいですね。ほんと、いつも会っているみたいに話が盛り上がって、あっという間に時間が過ぎてしまいました。また来年を楽しみにしましょう！！では



M43クラス会

松井 大貴 (M43)



2024年10月4日(金)、同窓会を開催しました。今回の集まりには、7名が参加し、我々の大切な恩師である佐瀬先生をスペシャルゲストとしてお迎えすることができました。

今回の同窓会は、自然を感じる特別な場所で行いました。心地よい秋風が吹く中、焚き火を囲んで温かみのある雰囲気の中、佐瀬先生による野外講習が行われ、参加者一同、改めて先生の深い知識と経験に触れることができました。焚き火の温もりを感じながら、かつての学生時代の思い出話を花を咲かせたり、互いの近況を報告し合ったりと、時を忘れて会話を楽しむひとときを過ごしました。

終始、笑顔の絶えない和やかな雰囲気の中、貴重な時間を共有し、一同心からリフレッシュできたと思います。2025年も、皆さまと一緒に素晴らしい時間を過ごせることを楽しみにしていますので、また再び集まりましょう。

富山高専陸上部OB会 活動報告

陸上部OB会副会長 松永 友宏 (M33)



8月17日 富山県総合運動公園陸上競技場にて第40回の富山高専陸上部OB会総会と記録会を開催しました。陸上競技場を半日貸し切り、パリ五輪閉幕直後の興奮冷めぬテンションのまま現役部員と共に駆け、跳んできました。当日は長年OB会を支えてくださっている歴代の先輩方に加え、若手OB、OG達が誘い合わせて沢山参加してくれました。

ここ数年、参加者の減少によりOB会活動に閉塞感を抱えていたところに新しい風が吹いたのを感じました。私自身、現役を引退してもうすぐ四半世紀。観客席スタンドに包まれた競技場を走るだけで感慨深いものがありました。私含め今回不本意な記録だったOBの方、来年まで鍛え直して出直しましょう！

現役部員の皆様には夏休みの忙しい中、計測、競技補助、応援様々な面でサポートしてもらいました。彼らの競技生活が充実したものになることを願っています。今後もOB会として彼らの競技活動を応援していきます。

P.S. 9月に北海道釧路にて開催された全国高専大会で陸上男子総合2位という素晴らしい結果報告をいただきました。

第5回ほんごう会関東支部 懇親会のご報告

関東支部長 長谷 治男 (M1)

去る2月1日の12時、東京は上野公園の中の上野精養軒本店に於いて24名の参加で賑やかに始まりました。コロナの影響で5年ぶりの開催でしたが、富山から名誉教授の森治朔先生と小川勝先生や長浜会長など5名の参加をい

ただき、関東圏からは主に1期生から5期生の19名が集いました。円卓ランチの西洋料理をつつきながら、両先生の元気の秘訣話からスタートして、現役バリバリの社長さん、趣味が高じて立派な本を出版した人、超難関の国家試験に合格した人、独居老人生活10年のベテラン、病気や薬のよもやま話などなど。自慢と苦勞の入り混じった人生訓が約2時間余り続きました。人それぞれで参考になったかどうかは不明ですが、みんな年をとるほどに高専のあの良き時代が輝きを増して、懐かしく愛おしく思っているのです。会場の窓の外には不忍池が広がり、その向こうは東京大学などの本郷地区です。我らの「本郷の里」が鮮やかによみがえりました。



上段左からC1新野誠一、C1小島邦夫(茶色のシャツ)、M3石川憲治、M5宝田均(白のセーター)、C1上田耕一郎、M3布野米雄、M3京田信行(眼鏡の白髪姿)、E3川原久雄、E3米田守(薄黄色のセーター)、C1津田哲行、E3野村正信(眼鏡の優しい垂れ目)、E3熊本周司(一番高身長)、E2福村徹(Vサインしてる)、E2米林伸、M15上田一人副会長、M5長浜啓一会長

下段左からE2有沢正人、C2柴田(吉田)悦子、M1長谷治男、森治朔名誉教授、小川勝名誉教授、E2北嶋博、M1砂山公守、E2松本尚人

協賛広告（私たちは会報誌V o l . 2 9と高専ロボコン2025東海北陸地区大会を応援します）

QMS・ISMS審査員、情報安全確保支援士
ICTトータルサポート

代表 **新田 謙一** (E9)

〒936-0052 富山県滑川市清水町15-13
TEL:090-8965-4326
Email:nitta.ken1@nifty.com

楽しく考えたい、空気・水・熱のこと
株式会社 朝日工業社

取締役 常務執行役員 営業本部長

中川 和浩 (M15)

〒105-8543 東京都港区浜松町1丁目25番7号
TEL:03-6452-8186 FAX:03-6452-8196
URL:https://www.asahikogyosya.co.jp

しろえび、甘えび、ズワイガニ
地産地消を推進します

とやま市漁業協同組合・岩瀬支所所属

第三 伊登勢丸

船主・船長 **道井 秀樹** (C15)

建設機械の販売・修理・レンタルのことなら

イワセ重機産業株式会社

代表取締役 **安川 栄文** (E20)

〒930-2206 富山県富山市金山新南28番地
TEL:076-405-2155 FAX:076-431-0630
Email:info@iwasejuki.co.jp

もう一つの提案を加える事を常に考えます

株式会社 Eアル

代表取締役 **上田 一人** (M15)

〒939-2746 富山県富山市婦中町浜子1313
TEL:076-465-5255 FAX:076-465-5256
Email:ueda@earu.jp

環境とエネルギーのエンジニアリング

株式会社 NEプロジェクト

代表取締役社長 **水和 啓** (C32)

〒930-0827 富山県富山市上飯野6番10
TEL:076-481-9101 FAX:076-481-9102
Email:neproject@ne-pj.co.jp

化学物質改正法対応、EHS相談できますよ

Office EBATA

代表 **江幡 孝道** (C10)

〒937-0017 富山県魚津市江口377
Email:kodoebata@gmail.com

分離・破碎(環境機械)の製造・販売

株式会社 エムダイヤ

代表取締役 **森 弘吉** (M28) (ME5)

〒936-0002 富山県滑川市中村551-2
TEL:076-476-0062 FAX:076-476-0063
Email:info@m-dia.jp

お客様に最高の安心と満足を!

有限会社 加越ヂーゼル機器

代表取締役社長 **山田 弘文** (M8)

〒933-0918 富山県高岡市大坪町3-6-14
TEL:0766-22-2743 FAX:0766-23-4250
Email:studio26@p1.tcnet.ne.jp

KANAYA

良いものを作りたいというこだわり

長浜 啓一 (M5) 高野 夏樹 (M22) 辻橋 翔平 (M42) (ME18)

株式会社 KANAYA

〒930-0873 富山県富山市金屋3137-9
TEL:076-439-0655 FAX:076-439-0595

太陽光発電で未来の日本を変えよう

北日本電機産業株式会社

代表取締役 **打出 孝彦** (C10)

〒939-8084 富山県富山市西中野町2丁目1010

TEL:076-491-3161 FAX:076-491-3171

Email:uchide@kitanihon-ds.co.jp

金属の変化は無限です

協伸熱処理工業株式会社

代表取締役 **酒井 久裕** (K9)

〒939-3548 富山市三郷12番地 富山企業団地内

TEL:076-478-5751 FAX:076-479-0021

Email:kyoushin@pf.ctt.ne.jp

薬づくりの最高に頼れるパートナーへ

協和ファーマケミカル株式会社

代表取締役社長 **三吉 勇人** (C21)

〒933-8511 富山県高岡市長慶寺530番地

TEL:0766-21-3456 FAX:0766-23-9030

URL:https://www.kyowa-pharma.co.jp/

インフラを100年活かすメンテナンス

構造メンテ株式会社

代表取締役 **田中 伸次** (K5)

〒939-0272 富山県射水市若杉277番地23

TEL:0766-30-3222 FAX:0766-30-3223

Email:tanaka@kozo-m.co.jp



日本で一番大きいガラスを加工できる会社です

三芝硝材株式会社

専務取締役 **増山 隆** (M9)

〒933-0974 富山県高岡市岩坪23-2

TEL:0766-24-6811 FAX:0766-27-1222

URL:https://www.sanshiba-g.co.jp/

電気制御に関する様々な問題に対応します

シードシステムズ株式会社

専務取締役 **岩村 潤** (E28)

〒939-8057 富山県富山市堀221番地

TEL:076-482-5797 FAX:076-482-5798

Email:iwamura@seedsystems.co.jp

電気・機械系教員募集中 詳細は問合せ下さい

高山自動車短期大学

学長 **坂井 歩** (E20) (ME1)

〒506-8577 岐阜県高山市下林町1155

TEL:0577-32-4440 FAX:0577-32-4081

Email:info@takayamacollege.ac.jp

立山化成株式会社

代表取締役社長 **片口 真** (C12)

〒939-0302 富山県射水市大江1133

TEL:0766-55-3700 FAX:0766-55-1545

URL:https://www.tateyamakasei.com/

強い心を育てる本気の企業研修

一般社団法人 小さな冒険学舎

代表理事 **赤池 龍** (C31)

〒939-2718 富山県富山市婦中町分田142-21

TEL:090-7832-0467 Email:info@chi-bouken.jp

URL:https://terakoyatsunagalin.wixsite.com/tunagalink

(協賛広告以外に8名の方より支援を頂きました。ありがとうございました) 協賛広告

企業と企業を繋ぐ

T・Mテック株式会社

代表取締役社長 土山 邦夫 (K4)

〒931-8328 富山県富山市犬島新町1丁目7番4号
TEL:090-4585-0167 FAX:076-464-4181
Email:kshowyou@pu.ctt.ne.jp

世界が注目する先進の研削技術を富山から

日清工業株式会社

代表取締役 滝内 史貴 (K12)

〒939-2366 富山県富山市八尾町保内2-3-4
TEL:076-455-3755 FAX:076-455-9060
Email:soumu@nissei-corp.co.jp

一般土木工事・解体工事・コンテナハウス事業

株式会社 FUJII

代表取締役 藤井 義昭 (K14)

〒928-0246 石川県輪島市里町1字6番地1(能登支店)
〒930-0936 富山県富山市藤木2188番地(本社)
TEL:080-4479-6616 FAX:076-425-1585
Email:k.fujii201304@gmail.com

熟技術と未来環境の追求

株式会社 宮本工業所

代表取締役 宮本 芳樹

〒930-8512 富山県富山市奥田新町12番3号
TEL:076-441-2201 FAX:076-442-9183
Email:saiyou@miyamoto-k.co.jp

ニーズに応える 現場発想の制御設計

株式会社 メガロソフト

代表取締役 志垣 大介 (M35)

〒930-0204 富山県中新川郡立山町寺田420番地
立山町サテライトオフィスあらたD
TEL:080-6367-3118 Email:info@megalo-soft.jp

おもいあふれる世界をつくる

株式会社 山森製鎖

取締役社長 村田 敬昭 (K25) (CK6)

〒930-0816 富山県富山市上赤江町1-3-63
TEL:076-432-5907 FAX:076-432-0077
URL:https://www.yamamori-group.co.jp/

ほんごう会の役員紹介

役員の紹介	氏名	卒業年/学科期	現在の勤務先	備考
会長	長浜 啓一	S48/M5	(株)KANAYA	
副会長	打出 孝彦	S53/C10	北日本電機産業(株)	富山高専技術振興会会員
	上田 一人	S58/M15	(株)Eアル	富山高専技術振興会会員
常任理事	長谷 治男(関東支部長)	S44/M1		
	藤田 正良(会計担当)	S52/E9		
	藤木 邦弘	S53/C10		
	金井 毅俊	S53/K5	富山市議会議員	富山高専技術振興会会員
	一谷 雅幸	S54/M11	(株)コラビエツト	富山高専技術振興会会員
	鋪田 博紀	S59/K11	富山市議会議員	富山高専技術振興会会員
	種部 元仁(総務担当)	S63/E20	(株)北陸経営	富山高専技術振興会会員
	吉田 功	H7/C27	昭北ラミネート工業(株)	
	高清 徳義	H10/M30	(株)大谷製鉄	
	高木 亨	H10/M30	富士通(株)	
監事	松永 友宏	H13/M33	(株)松永精工	
	浜下 朝夫	S44/M1	富山高等専門学校	特任教授、コーディネーター
学校理事	栗原 貞雄	S48/E5	(株)新工	
	高松 さおり(学校窓口)	H13/K28	富山高等専門学校	物質化学工学科、准教授

令和7年度 大ほんごう会の開催案内（同窓会総会、懇親会）

会員皆さんの親睦を図るため、今年も「大ほんごう会」を開催します。恩師の先生方にも多数参加頂く予定です。学生時代の思い出、近況報告、企業の情報交換、転職情報など、参加される皆さんにとって有意義な時間になればと思っています。クラス会を兼ねての参加も大歓迎です！

参加される先生方は、決まり次第ほんごう会ホームページでお知らせします。

多数の皆さんのご参加をお待ちしています。

次第

定期総会（2階）15時～16時30分

懇親会（2階）17時～19時30分

記念講演：講師 名誉教授 富田 尚

講演テーマ：「あなたに会えてよかった」

プロフィール：平成4年4月 富山工業高等専門学校 着任

平成21年10月 富山高等専門学校 教授

令和3年3月 定年退職



日時：令和7年11月29日（土）15:00～19:30
（受付開始14:30より）
場所：パレブラン高志会館
（富山市千歳町1-3-1 TEL 076-441-2255）

会費：定期総会（講演会含む参加費無料）
懇親会 1万円（40歳以上（38期生）の男性）
7千円（女性と40歳未満の男性）
どちらかみの出席も出来ます。



申込みは、ほんごう会ホームページ、QRコードまたはメールにて、11月15日までにお知らせ下さい。

高専ロボコン2025 東海北陸地区大会のお知らせ

高専の学生達が自作のロボットでアイデアや技術を競う「全国高等専門学校ロボットコンテスト2025」の東海北陸地区大会は、10月5日（日）に富山市八尾スポーツアリーナで開催されます。

このコンテストは、全国高等専門学校連合会やNHKなどが毎年開いていて、今年の大会は母校の富山高専本郷キャンパスが担当校となり、東海北陸地区の9学校、10キャンパスから20チームが参加予定です。昨年のこの大会では、富山高専射水キャンパスAチームが優勝しました。

2025年度の競技課題は、ロボットがボックスを積み上げてゲートをつくり、そのゲートを人が乗った台車と一緒に通過します。

開催当日の皆さんからの応援や支援をお待ちしています。詳細は、富山高専HPまたはほんごう会HPで紹介させていただきます。

開催日：2025年10月5日（日）

開催場所：富山市八尾スポーツアリーナ

開催校：富山高等専門学校本郷キャンパス

事務局からのお知らせ

1 令和7年度定時理事会開催

令和7年度ほんごう会定時理事会が6月19日に開催され、提案された3件の議案は全て承認されました。詳細はほんごう会HPに掲載します。

2 会員情報変更手続き

ほんごう会ホームページより、会員情報の変更が出来るようになりました。住所・勤務先・連絡先等の変更が有りましたら変更登録をお願いします。

3 会報誌への投稿お願い

会員皆さんの近況や職場を、会報で紹介させていただきますので、是非とも投稿をお願いします。また、クラス会やOB・OG会を開催された場合も、どしどし事務局Eメールアドレスまで送付をお願いします。投稿頂きました会員や団体の方には助成金をお送り致します。

4 協賛広告の申し込み

会報誌ほんごうへの協賛広告は、次号以降も実施致します。申し込みは、ほんごう会事務局まで連絡願います。

編集後記

今年度は行事が盛沢山です。ほんごう会会員名簿の発行（10月下旬）、高専ロボコン東海北陸地区大会の開催（10月5日、富山市八尾スポーツアリーナ）、志峰祭（11月8日～9日）、大ほんごう会（11月29日、パレブラン高志会館）などなど。

事務局では、次号（Vol.30）の原稿集めもスタートしており、卒業生皆さんに多数の話題を提供していきます。会員皆さんの交流がもっと活発になって、会報誌の紙面をにぎわせていただける投稿をお願いします。（藤田）

事務局

・藤田 正良 (E9) : fujimasa70@gmail.com

・種部 元仁 (E20) : tane@b.email.ne.jp

ほんごう会事務局

HP <https://hongokai.sakura.ne.jp/>
Eメール toyama@hongokai.sakura.ne.jp

